

第 131 回「言葉の院外処方箋」

「癒しの場」 ～ 「一人にしない」 & 「いつでも寄り添う」 ～

2022 年 10 月 15 日午前中、東京都東久留米市立第二小学校での授業『がん教育』を依頼された。その後、千葉県柏での『ホスピスケアを広める会』公開講演会『新渡戸稲造生誕 160 周年記念 と がん哲学外来とは』（千葉県柏市アミューゼ柏に於いて）に向かう。

『ホスピスケアを広める会』は、【患者本位・患者中心の医療が実現することを望み、医療従事者と一般の市民が協力して、啓発活動および在宅支援を行い、地域でホスピスケア・緩和ケアの医療が拡大することに寄与することを目的として 1998 年発足しました。】と謳われている。『ホスピスケアを広める会』の宮坂いち子理事長は、【昨年の 12 月『がん哲学外来』創設者で順天堂大学名誉教授の樋野興夫先生にお会いする機会があった。知人の紹介で柏市地域医療連携センターに来られる先生とお会いする予約を取っていただいた。2008 年に先生が順天堂大学で『がん哲学外来』という外来を開設したという話を新聞で読んでいたので、樋野先生が柏に来られる機会にお会いできたことは幸いだった。】

さらに、【私がこの『がん哲学外来』に目を止めたのはその命名である。がんの患者会や がん研究という言葉はよく目にするが『がん哲学』は初めて聞く言葉であり、何だろうと心惹かれた。—— 先生にお会いして分かったことはがんを科学として学びながら、がん哲学的な考えを取り入れていくと言う事だった。病理学者である先生は 病理解剖したがんなどから、がん細胞の進展が良く分かり、治りにくいがん、末期のがんなど、がんの実態が分かる方である。患者が がんと言われた時、主治医ではなく その後の経過などゆっくり話を聞いてくれる医師が欲しいという要望が強かった。しかし現場の医師たちは時間が限られていて その時間がない。そこで病理学という分野の医師が、順天堂大学で『がん哲学外来』という無料の外来窓口を設け、がん と どの様に付き合っていくかの処方箋を言葉（哲学）で患者に示すという企画をしたのが樋野先生であった。】& 【『がん哲学カフェ』は、「あなたを一人にしない」、「いつでもあなたに寄り添います」という場である。そのような「癒しの場」を私達も工夫して当会らしい「哲学カフェ」として東葛地域に提供していきたい。】とのことである。大いに感動した。

公開講演会

2022年

新渡戸稲造生誕 160周年記念と がん哲学外来とは！

順天堂大学名誉教授
新渡戸稲造記念センター長



恵泉女学園理事長

ひ の おき お
医師 樋野 興夫 氏

樋野先生ががん哲学外来を開設したきっかけとなった新渡戸稲造の「武士道」や内村鑑三、南原繁から感化された経緯をお話いただけます。現在、樋野先生が提唱された患者のいのちの場としての「がん哲学カフェ」が全国に広がっています。

令和4年10月15日(土) 14時~16時(開場13時30分)

アミュゼ柏 プラザ(JR 常磐線柏駅東口徒歩7分)

入場無料 先着70名 (当日会場に直接お越しください)

お問合せ

NPO法人ホスピスケアを広める会

〒277-0832 柏市北柏1-2-7 少名子ビル1F 電話・FAX 04-7163-0634

受付時間：月～金 午前10時～12時 Eメール zaitakucare04@jcom.home.ne.jp

ホームページ <http://hoscare.wp.xdomain.jp/>

主催 NPO法人ホスピスケアを広める会

後援 柏市・柏市社会福祉協議会